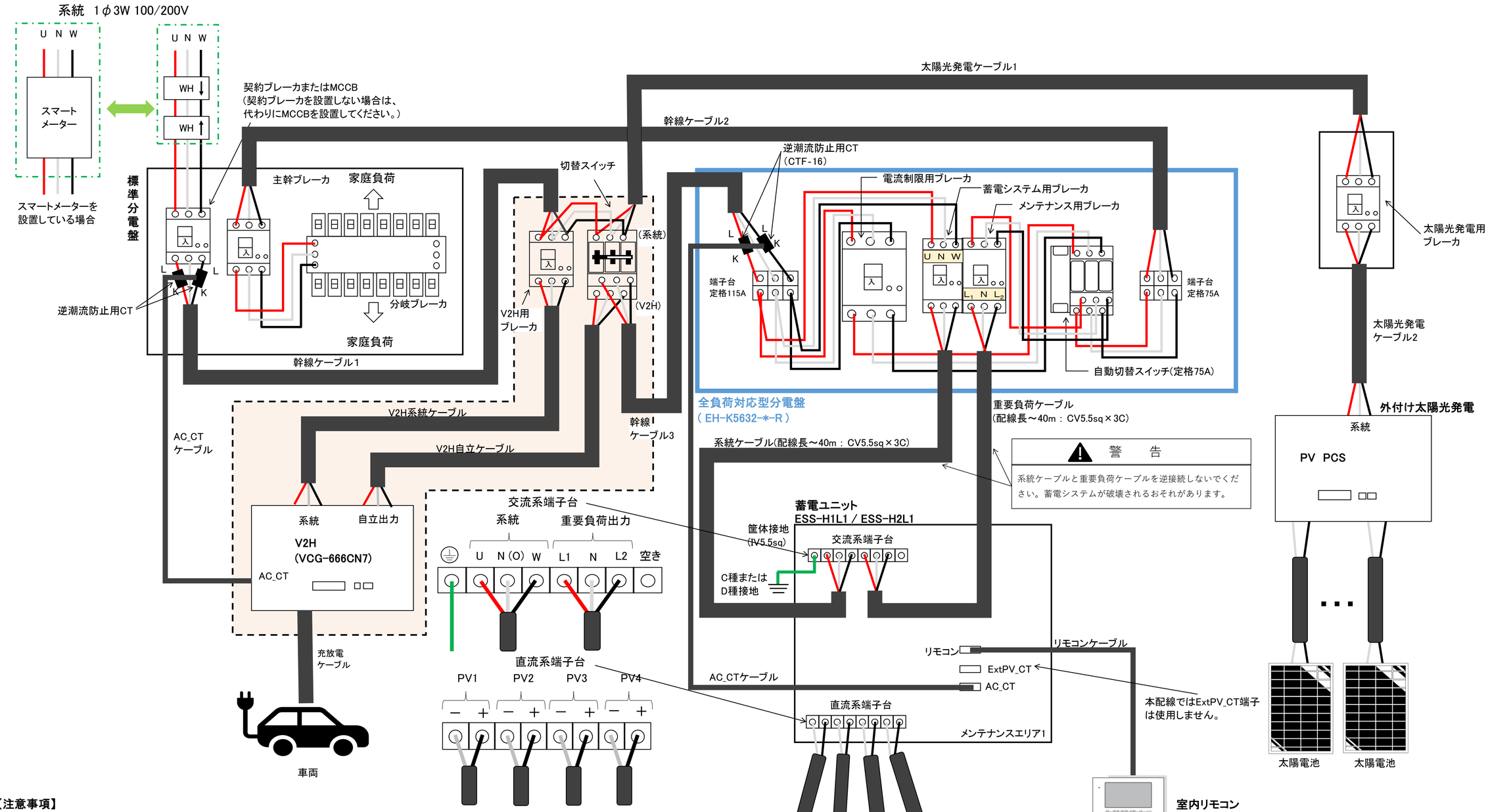
【ESS-H1L1/H2L1】 標準配線+V2H(VCG666CN7)+外付け太陽光発電あり（太陽光発電合計6kW以上）



警　告

系統ケーブルと重要負荷ケーブルを逆接続しないでください。蓄電システムが破壊されるおそれがあります。

【注意事項】

- 外付け太陽光発電と内臓太陽光発電の合計が**6kW以上**の場合はこちらの配線例を基に施工してください。
- 本配線例は**"押し上げあり"**配線となりますので、電力会社への申請時には必ず確認して下さい。
- 家庭負荷は片相7.5kVA、両相合計15kVA以下となるようにしてください。
- 蓄電ユニットの筐体接地を施してください。
  太陽電池の開放電圧が300Vを超える場合 … C種接地
  太陽電池の開放電圧が300V以下の場合 … D種接地
  （ただし、ニチコンオプション分電盤には、地絡を生じた場合に0.5秒以内に電路を自動的に遮断する装置が搭載されているため、C種接地、D種接地共に接地抵抗値を500Ω以内にすることができます。）
- 蓄電ユニットの筐体接地と太陽電池の架台接地は別々の独立した接地棒に接続してください。
  （外部ノイズにより、蓄電システムの誤動作やテレビ、ラジオ、無線機器等への電波障害を引き起こすおそれがあります。）
- 外部PV電力監視用CT（ExtPV_CT）は接続しません。リモコン接続確認の外付け太陽光発電を"なし"にしてください。
- 送り配線、渡り配線はブレーカ等の許容電流、発熱等を十分考慮してください。
- ［　　］内の詳しい施工方法はVCG-666CN7の施工説明書をご覧ください。

d101